

第14期

運用報告書(全体版)

中小型成長株オープン (愛称 スモール・モンスターズ・ジャパン)

【2021年3月4日決算】

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。
皆様の「中小型成長株オープン（愛称 スモール・モンスターズ・ジャパン）」は、2021年3月4日に第14期決算を迎えましたので、期中の運用状況ならびに決算のご報告を申し上げます。

今後とも、一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



〒104-0031 東京都中央区京橋2-2-1

お問い合わせは弊社営業部 セールスサポートグループへ
フリーダイヤル ☎ 0120-048-214 (営業日の9:00~17:00)

[ホームページ]

<https://www.okasan-am.jp>

※アクセスにかかる通信料はお客様のご負担となります。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	2014年3月10日から2024年3月4日までです。
運用方針	主として、わが国の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）株式のうち、相対的に時価総額が中小型規模の株式に投資を行い、投資信託財産の成長を目指して積極的な運用を行います。また、新興市場の株式に積極的に投資する場合があります。
主要投資対象	わが国の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）株式を主要投資対象とします。
投資制限	株式（新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。）への投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	毎年3月4日および9月4日（それぞれ休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき、収益分配を行います。分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案して決定します。分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	基準価額			日経ジャスダック平均株価 (参考指数)		株式 組入比率	株式 先物比率	純資産額		
		税 分	込 配	み 金	期 騰	落 率				期 騰	中 率
	円			円		%	%	%	百万円		
10期(2019年3月4日)	19,310			0		△11.7	3,498.01	△7.8	94.4	—	1,734
11期(2019年9月4日)	19,652			0		1.8	3,295.28	△5.8	96.1	—	1,617
12期(2020年3月4日)	16,618			0		△15.4	3,381.55	2.6	90.9	—	1,177
13期(2020年9月4日)	21,989			0		32.3	3,530.10	4.4	97.0	—	1,342
14期(2021年3月4日)	22,723			0		3.3	3,777.36	7.0	93.7	—	782

(注) 基準価額および分配金（税引前）は1万口当たり、基準価額の騰落率は分配金（税引前）込み。

(注) 日経ジャスダック平均株価は当ファンドの参考指数であり、ベンチマークではありません。

(注) 株式先物比率＝買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

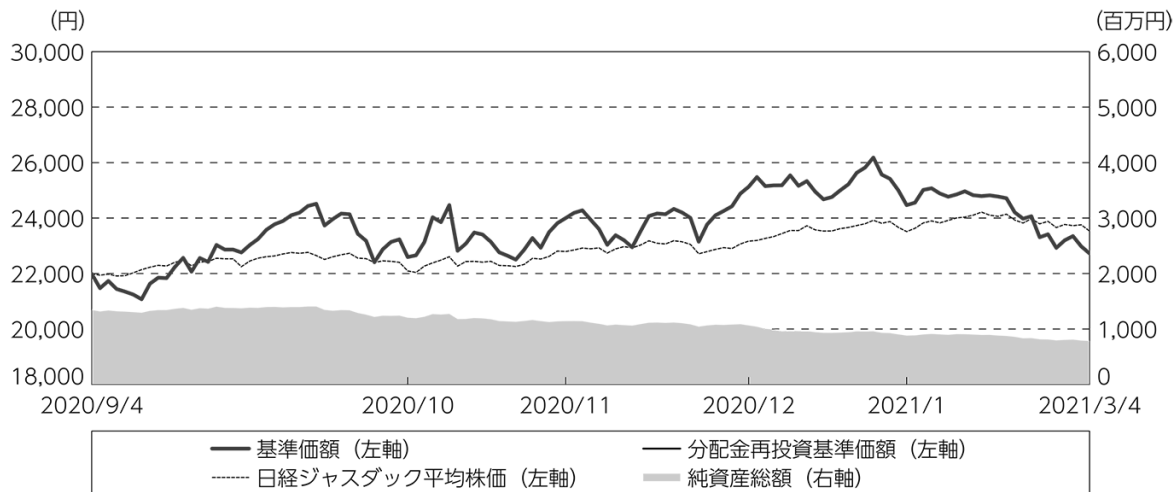
年月日	基準価額	基準価額		日経ジャスダック平均株価 (参考指数)		株式 組入比率	株式 先物比率
		騰	落	騰	落		
(期首)	円		%	円	%	%	%
2020年9月4日	21,989		—	3,530.10	—	97.0	—
9月末	22,864		4.0	3,616.99	2.5	96.4	—
10月末	22,594		2.8	3,547.01	0.5	96.9	—
11月末	23,999		9.1	3,659.20	3.7	97.6	—
12月末	25,129		14.3	3,719.41	5.4	96.4	—
2021年1月末	24,467		11.3	3,774.68	6.9	93.1	—
2月末	22,925		4.3	3,798.00	7.6	93.2	—
(期末)							
2021年3月4日	22,723		3.3	3,777.36	7.0	93.7	—

(注) 騰落率は期首比。

運用経過

期中の基準価額等の推移

（2020年9月5日～2021年3月4日）



期首：21,989円

期末：22,723円（既払分配金（税引前）：0円）

騰落率： 3.3%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 参考指数は、日経ジャスダック平均株価です。
- (注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、期首（2020年9月4日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドにおける主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

(主なプラス要因)

- ・業種配分では、電気・ガス業、化学、機械などが基準価額にプラスに寄与しました。
- ・個別銘柄では、レノバ、ミンカブ・ジ・インフォノイド、トリケミカル研究所などが基準価額にプラスに寄与しました。

(主なマイナス要因)

- ・業種配分では、小売業、情報・通信業、医薬品などが基準価額にマイナスに影響しました。
- ・個別銘柄では、ランサーズ、マクアケ、プロレド・パートナーズなどが基準価額にマイナスに影響しました。

投資環境

（2020年9月5日～2021年3月4日）

国内株式市場は、堅調な展開となりました。米大統領選挙への不透明感が強まった2020年10月下旬や、米国の長期金利上昇を受けて投資家のリスク回避姿勢が強まった2021年2月下旬には、一時的に株価が弱含む場面も見られました。しかし、世界各国の中央銀行が積極的な資金供給を続ける中で、日本では2020年4-6月期を底にして景気や企業業績が回復局面入りしたことから、株式市場は上昇基調で推移しました。特に、11月以降は米大統領選挙の結果を受けて政治リスクが後退したことや、新型コロナウイルスのワクチンの実用化に目途が立ったことを受けて、株式市場は大きく上昇する展開となりました。

当ファンドのポートフォリオ

（2020年9月5日～2021年3月4日）

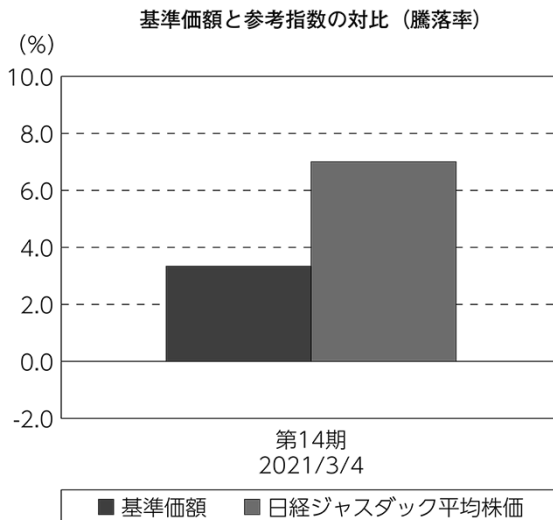
当ファンドの運用につきましては、企業の中長期的な利益成長ポテンシャルや株価指標面での割安感などに着目して銘柄選別を行いました。

具体的には、交換式レンズの需要回復と構造改革による収益性改善が期待されたタムロンや、新型コロナウイルスの感染者数が減少し、外出自粛や営業時間短縮などが緩和・解除された局面で需要の回復が見込まれたフリューなどを買付けました。一方、電子商取引（EC）プラットフォームサービスの来期以降の成長率鈍化が懸念されたHammeや、短期的に物色の対象になりにくいと判断したJCRファーマなどを売却しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2020年9月5日～2021年3月4日）

当ファンドは特定のベンチマークを設けておりませんが、当ファンドの基準価額の騰落率は、参考指数としている日経ジャスダック平均株価の騰落率を3.7%下回りました。詳細につきましては前掲の「基準価額の主な変動要因」をご参照ください。



（注）基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

（注）参考指数は、日経ジャスダック平均株価です。

分配金

（2020年9月5日～2021年3月4日）

当ファンドは毎年3月4日および9月4日（それぞれ休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案のうえ分配金額を決定します。

当期の分配につきましては、基準価額水準が当初元本を上回っておりますが、投資信託財産の成長に重点を置くこととし、見送りとさせていただきます。なお、収益分配に充てなかった留保益につきましては、運用の基本方針と同一の運用を行ってまいります。

（単位：円、1万口当たり・税引前）

項 目	第14期
	2020年9月5日～ 2021年3月4日
当期分配金	—
（対基準価額比率）	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	12,723

（注）対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

国内株式市場は、世界的な景気の回復を織り込む堅調な展開になると予想します。ただし、2020年後半以降の株価上昇ペースが速いことや金融政策正常化への懸念などから、一時的に調整する場面もありうると考えております。

当ファンドの運用につきましては、相対的に時価総額が中小型規模の銘柄の中から、高い技術力、優れた商品開発力、特徴あるビジネスモデル、事業構造の改革などにより、飛躍的な成長が期待される企業の株式を選別します。

今後の運用につきましては、積極的な企業取材を通じて、コロナ禍から経済活動が正常化する局面において高い利益成長が期待される銘柄への選別投資を行うことで、基準価額の上昇を目指してまいります。

※文中の投資行動は、個別銘柄の売買等いかなる投資行動も推奨するものではありません。

○ 1 万口当たりの費用明細

（2020年9月5日～2021年3月4日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円	%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	110	0.464	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(52)	(0.218)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(52)	(0.218)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
	(6)	(0.027)	
(b) 売 買 委 託 手 数 料	44	0.185	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
（ 株 式 ）	(44)	(0.185)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) そ の 他 費 用	1	0.006	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(1)	(0.006)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ そ の 他 ）	(0)	(0.000)	その他は、金銭信託支払手数料
合 計	155	0.655	
期中の平均基準価額は、23,663円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

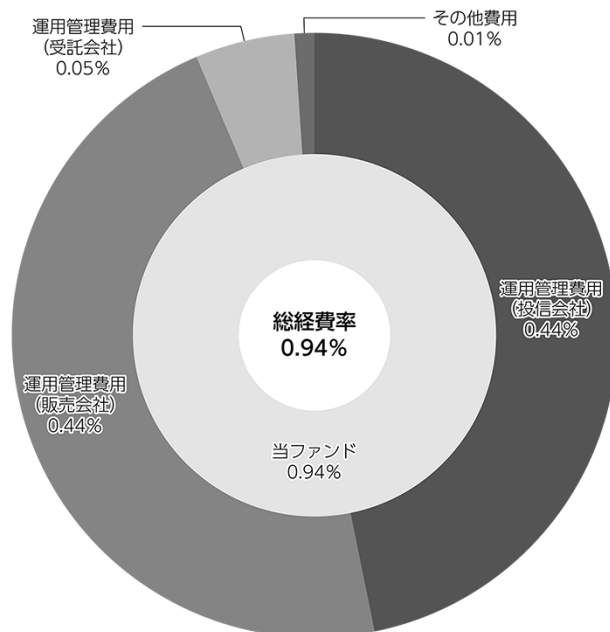
(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.94%です。



（注）当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

（注）各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

（注）各比率は、年率換算した値です。

（注）上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

（2020年9月5日～2021年3月4日）

○売買及び取引の状況とは、ファンドが購入・売却した有価証券の数量および金額です。

株式

国 内	上場	買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
		千株	千円	千株	千円
		400	692,811	711	1,345,254
		(51)	(-)		

(注) 金額は受渡代金。

(注) 単位未満は切捨て。

(注) ()内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

（2020年9月5日～2021年3月4日）

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	2,038,065千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	1,032,380千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.97

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

○利害関係人との取引状況等

（2020年9月5日～2021年3月4日）

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
株式	692	72	10.4	1,345	288	21.4

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	2,000千円
うち利害関係人への支払額 (B)	361千円
(B) / (A)	18.0%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは岡三証券です。

○組入資産の明細

(2021年3月4日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
化学 (3.9%)			
トリケミカル研究所	3.9	7.8	28,470
医薬品 (3.6%)			
JCRファーマ	4.9	—	—
モダリス	8.8	12.5	26,662
機械 (13.3%)			
F U J I	21	11	28,336
自律制御システム研究所	—	4.7	12,032
ブリュー	—	26.7	28,916
スター精密	—	18.2	28,355
電気機器 (14.5%)			
山洋電気	—	3.4	19,822
HP Cシステムズ	11.8	—	—
ワコム	65.7	41.4	30,470
アンリツ	20	14.5	34,191
アパールデータ	—	6.3	21,672
精密機器 (8.4%)			
日本エム・ディ・エム	20	13.4	25,687
タムロン	—	18.2	35,908
電気・ガス業 (2.6%)			
レノバ	41.9	5.6	18,676
情報・通信業 (31.3%)			
メディアドゥ	3.5	—	—
オブティム	6.9	—	—
セレス	—	6.9	27,772
ヴィンクス	—	13.2	13,754
ブレイド	—	4	14,820
ココベリ	—	1.1	5,775
ヤブリ	—	2.3	10,580
coly	—	0.5	3,525
EduLab	7	6.2	44,578
リックソフト	3.9	—	—
ミンカブ・ジ・インフォノイド	24.1	10.7	41,516
Chatwork	24.8	—	—

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
ギフトイ	18.2	—	—
マクアケ	3.3	4.8	34,368
メドレー	2.2	—	—
JMDC	8.5	6.3	32,760
卸売業 (2.2%)			
あい ホールディングス	—	7.9	16,297
アセンテック	14	—	—
小売業 (11.6%)			
セリア	5.3	—	—
Hamee	25.1	—	—
シュッピン	—	28.7	26,604
オイシックス・ラ・大地	21.6	10.1	28,037
あさひ	26.4	13.4	20,274
TOKYO BASE	—	14	10,318
その他金融業 (3.4%)			
イー・ギャランティ	—	12.7	25,019
不動産業 (—%)			
日本管理センター	35.6	—	—
GA technologies	7.2	—	—
サービス業 (5.2%)			
ギグワークス	20.5	—	—
ワールドホールディングス	—	10.9	27,511
パリュエコマース	6.9	—	—
エスクロー・エージェント・ジャパン	112.8	—	—
ジャパンエレベーターサービスホールディングス	9	—	—
プロレド・パートナーズ	9	—	—
Fast Fitness Japan	—	2.4	10,416
NexTone	4.7	—	—
合 計	株数・金額 598	339	733,127
	銘柄数<比率>	32	31<93.7%>

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注) 合計欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

(2021年3月4日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	733,127	92.4
コール・ローン等、その他	60,447	7.6
投資信託財産総額	793,574	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2021年3月4日現在）

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	793,574,549
コール・ローン等	59,332,249
株式(評価額)	733,127,900
未収配当金	1,114,400
(B) 負債	11,333,586
未払解約金	6,071,567
未払信託報酬	5,200,397
未払利息	21
その他未払費用	61,601
(C) 純資産総額(A-B)	782,240,963
元本	344,243,753
次期繰越損益金	437,997,210
(D) 受益権総口数	344,243,753口
1万口当たり基準価額(C/D)	22,723円

(注) 計算期間末における1口当たりの純資産額は、2,2723円です。

(注) 当ファンドの期首元本額は610,722,000円、期中追加設定元本額は89,754,913円、期中一部解約元本額は356,233,160円です。

○損益の状況（2020年9月5日～2021年3月4日）

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	2,824,619
受取配当金	2,830,786
受取利息	212
その他収益金	5
支払利息	△ 6,384
(B) 有価証券売買損益	13,581,263
売買益	251,818,717
売買損	△238,237,454
(C) 信託報酬等	△ 5,263,854
(D) 当期繰越損益金(A+B+C)	11,142,028
(E) 前期繰越損益金	27,549,008
(F) 追加信託差損益金	399,306,174
(配当等相当額)	(249,794,740)
(売買損益相当額)	(149,511,434)
(G) 計(D+E+F)	437,997,210
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	437,997,210
追加信託差損益金	399,306,174
(配当等相当額)	(249,794,740)
(売買損益相当額)	(149,511,434)
分配準備積立金	38,691,036

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定した価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 収益分配金

決算期	第14期
(a) 配当等収益(費用控除後)	1,918,183円
(b) 有価証券等損益額(費用控除後、繰越欠損金補填後)	9,223,845円
(c) 信託約款に規定する収益調整金	399,306,174円
(d) 信託約款に規定する分配準備積立金	27,549,008円
分配対象収益(a+b+c+d)	437,997,210円
分配対象収益(1万口当たり)	12,723円
分配金額	0円
分配金額(1万口当たり)	0円

<お知らせ>

該当事項はございません。

用語解説

○資産、負債、元本及び基準価額の状況は、期末における資産、負債、元本及び基準価額の計算過程を表しています。主な項目の説明は次の通りです。

項目	説明
資産	ファンドが保有する財産の合計です。
コール・ローン等	金融機関向けの安全性の高い短期貸付運用などの残高です。
各種有価証券等(評価額)	組入れた株式・債券・ファンドなどの評価金額です。
未収入金	入金が予定されている有価証券の売却代金などです。
未収配当金	入金が予定されている株式の配当金等です。
未収利息	入金が予定されているコール・ローン等の利息や債券の利息の合計です。
負債	支払いが予定されている金額の合計です。
未払収益分配金	期末時点で支払いが予定されている収益分配金です。
未払解約金	支払いが予定されている解約金です。
未払信託報酬	支払いが予定されている信託報酬の額です。
その他未払費用	支払いが予定されている監査費用、その他の費用です。
純資産総額(資産－負債)	ファンドが保有する財産の合計から支払いが予定されている金額の合計を差し引いたものです。
元本	ファンド全体の元本残高です。
次期繰越損益金	純資産総額と元本の差額(翌期に繰り越す損益金の合計額)です。
受益権総口数	受益者が保有する受益権口数の合計です。
1(万)口当たり基準価額	1(万)口当たりのファンドの時価です。

用語解説

○損益の状況は、期中にファンドがどのような収益や損失を計上したかを表しています。主な項目の説明は次の通りです。

項目	説明
配当等収益	ファンドが受取った配当金・利息等の合計です。
受取配当金	保有する株式等の配当金等です。
受取利息	債券、コール・ローン等の利息等です。
有価証券売買損益	有価証券の売買損益と期末の評価損益の合計額です。
売買益	売買益と期末評価益の合計です。
売買損	売買損と期末評価損の合計です。
信託報酬等	信託報酬のほか保管費用、監査費用、その他の費用と、それに掛かる消費税等相当額です。
当期損益金	当期における収支合計です。
前期繰越損益金	前期分の分配準備積立金と繰越損益金の合計額から当期中の解約に対する持分を控除した金額です。
追加信託差損益金	受益者がファンドに払い込んだ金額と元本との差額です。
(配当等相当額)	配当等に相当する額です。
(売買損益相当額)	売買損益に相当する額です。
計	収益分配前の期中の収支の総合計です。
収益分配金	期中の分配可能額から受益者に支払われる分配金です。
次期繰越損益金	翌期に繰り越す損益金の合計です。
追加信託差損益金	翌期に繰り越す追加信託差損益金です。
(配当等相当額)	配当等に相当する額です。
(売買損益相当額)	売買損益に相当する額です。
分配準備積立金	翌期に繰り越す分配準備積立金の額です。
繰越損益金	翌期に繰り越す損益金の額です。